



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 045-893-4877 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 266 号

(創刊 1988.12.14)

2011.11.03.

高速道路の安全神話を作るな

本年 3 月 11 日の東日本大震災の後、国交省はいち早く「高速道路のあり方検討有識者委員会」を立ち上げ、今回東北道が緊急輸送路として役立った事を挙げて「高速道路は震災時に必要である」と主張している。

これを受ける形で横浜市道路局と栄区は、「栄区内における道路事業についてお知らせ」を配布して、横浜環状南線(以下南線)は震災時に緊急輸送路としての役割が期待されるとし、NEXCO 東日本もこれと歩調を揃えて全く同じ内容を宣伝している。さらにこれをそのまま信じて、区民向けの自らの広報紙で同じ主張をしている議員もいる。

しかし、これらは事実と反する一方的な主張である。国交省自身も認めているように、今回東北道が緊急輸送路として役立ったのは過去の津波の経験から高速道路を高所に建設して災害を免れたためであり、この例をもって一方的に「高速道路は震災時に緊急輸送路として機能する」というのは誤りである。

南線の様に砂礫層を主とする軟弱地盤の盛土に六車線の大型トンネルが貫通する高速道路は、南関東地震の様な大地震の場合(横浜市が南線沿線は震度 6 強と予測)、落盤や陥没が起きて通行不能となり、その修復に長時間を要するため緊急輸送路として役立つことなど到底期待できないからである。

連協は上記高速道路のあり方検討委員会に、「国内には南線のように震災に弱い高速道路が少なくないはずであり、この問題について討議して貰いたい」との要請書を 10 月 31 日付けで提出した。これをしないで、高速道路は震災時に安全で役立つと一方的に主張するのは、国を挙げて原発の安全神話を作り上げて、東京電力福島第一原発について震災への万全の対策を疎かにしたために、国難とも言

うべき大変な放射能被害をもたらしたのと同じ過ちを繰り返す事になる。

こうして高速道路の安全神話が作られると、住民の生命、財産の安全よりも道路建設を優先するための錦の御旗として利用され、その結果住民は取り返しのつかない災害を蒙る事になる。

私達は自らの安全を守るためにこのような神話に惑わされる事無く、あくまでも科学的思考に基づいて判断する事が必要である。

(法都計部)

野田政権に陳情

南線を凍結して復興へ

来年度の予算編成に向けて野田政権として新しく 9 月 27 日に陳情対応本部が設置された。民主党県連を通して受付け、一件ごとに担当議員を決めて対応を図るというものだ。これに応じて連協としては地元長島一由議員を通して陳情書を 10 月 3 日に提出した。「南線を凍結して東日本震災の復興に回すこと、地元の 3 号線、4 号線の整備が急務であること」を訴えている。

3 月の大震災後、「公共事業費 4 兆円の 5%、2,000 億円を復興に回す」と閣議決定していたがこの 10 月、3 次補正予算の財源確保に苦しんでいる時に、誰も気が付かないうちにこっそりと前言を翻し復興に回すのを止めてしまった。相も変わらぬ票集めに走る陣笠議員の要望どおりに、政府は復興をそっこのけで公共事業費を復活させたのである。

復興債に頼り消費税に期待する姿勢は日本の現実から目をそらすものであり、この日本を根本から変革するためにはその象徴である公共事業費に手をつけなければ覚醒しない。

この件に関して連協は野田政権に強く抗議をしたところである。 会長 比留間

第2回大気汚染ウォッチング報告

10月5日、「神奈川救済懇」相談会主催の第2回大気汚染ウォッチングに25名が参加しました。(連協からは2名の参加)

目的は大気測定局の把握と横浜の空気がいかに悪いのかを実感すること。

コースは、JR 鶴見駅東口 汐田診療所で事前学習会 汐入自動車排ガス測定局(車中より) 横浜北環状道路建設地 本牧埠頭(本牧ポートハイツ前) 浅間下自動車排出ガス測定局(横浜市職員から機器の説明を受ける) 青葉台自動車排出ガス測定局 青葉台公会堂にてまとめを行い解散となりました。



(環状北線工事現場)



(環状北線工事現場で説明を聞く参加者)

いつも電車の車窓から見ていた北線の工事現場に立った時には、浅野学園、法政女子高、横浜商科大学、生麦中学校などが立地する文教地域に世界でも例のない上下18車線もの道路が造られる日本という国、原発事故による放射線対策においても同じですが、将来を担う子ども達の健康を、いのちを大切にしない国だということを認めなければならないことに心が痛みました。

また、横浜市の大気汚染公害患者に対しての援助が、相談会が年4回(参加者10人)、講演会が年2回開催という無策ぶりに怒りを覚えました。

横浜市に大気汚染患者の医療費補助制度の創設を求める所以です。

(西ヶ谷 高村)

第一回公害調停開催

横環南線アセスの大気汚染予測評価のやり直しを求める公害調停

10月25日、神奈川県公害審査会における第一回調停が開催された。3名の調停委員(須々木永一、宮澤廣幸、梅干野晃氏)により、申告人(比留間会長以下5名) 被申告人(国交省関東整備局、東日本高速道路(株)関東支社関係者24名)の個別ヒヤリングが行われ、当方の提案による現地見学(個別対応)が決定した。それを経て12月19日に第二回調停が開催される。(事務局)

対外活動報告

- 10/03 長島一由衆院議員に「横環南線の計画凍結要求(陳情書)を提出(民主党神奈川県連には写しを提出)。本陳情書は県連より党本部に送られ受理された。
- 10/03 横浜市議会決算委員会傍聴(岩崎ひろし議員による栄区区民アンケート問題質問、7名参加)
- 10/03 かながわ大気汚染・道路公害連絡会
- 10/11 栄区長に「2011年栄区民アンケートに対する再質問」書提出
- 10/11 首都圏道路問題連絡会幹事会開催(11/5~6の全国交流集会調整)
- 10/11 高尾山トンネル部分事業認定取消し裁判傍聴(東京高裁 3名参加)
- 10/12 横浜市長に「市議会における市長答弁についての質問と要請」書の提出
- 10/12 大桑正貴市会議員に「市議会での貴職の質問について(要請)」書の提出
- 10/25 神奈川県公害審査会 第一回調停開催(申立人5名出席)
- 10/22 統一パレード実行委員会開催
- 10/25 横浜市内大気ウォッチング参加(2名)
- 10/31 高速道路のあり方検討有識者委員会 寺島実郎座長に対して「貴委員会による東日本大震災を踏まえた緊急提言について(要請)」書を提出